

基礎・基本を習得し、活用できる力を育てる国語科学習指導

人物の考え方や生き方をとらえよう

「わらぐつの中の神様」

1 単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう 「わらぐつの中の神様」

2 単元の目標

人の身になって尽くす真心を大切にしてきたおばあちゃんとおじいちゃんの考え方や生き方を読み取り，その考え方や生き方に感動して変容するマサエの姿を読み取ることができるようにする。

文末表現や似た言葉に着目したり，場面を比べたりする読み方を活用しながら，文章構成の意図や情景を読むという読み方や人物の見方を相互に比べて読むという読み方を習得することができるようにする。

3 本教材についての考え方

本教材は，おばあちゃんの昔語りにこめられた相手のことを大切に思う心や生き方を，主人公であるマサエの目を通して描いた作品である。はじめ，「わらぐつなんてみたくない」「そんなの迷信でしょ」と神様を信じずに，すぐ言い返していたマサエが，おばあちゃんの昔語りを聞くことにより，人の身になって精一杯真心をつくす思いに気づき，さらには，その奥にあるおばあちゃんとおじいちゃんの生き方を発見していく。言うなれば，自分と同年代のマサエの考え方の変容について考えていくことは，おばあちゃんがマサエに伝えようとする内容を子ども自身がどう受け止めていくかを考えていくことである。つまり，マサエを通して，おばあちゃんの昔語りにこめられた思いや作者のものの見方・考え方に対する自分の見方・考え方を見つめ直すのに適した教材である。

文章構成の特質としては，1行空きによって「現在 - 過去 - 現在」の三つの場面に分けられ，過去のおばあちゃんの昔語りを前後から包み込む形で構成されている。そのため，まず，過去のおばあちゃんの昔語りのあらすじとおばあちゃんが伝えようとする内容をしっかりととらえ，その上で，冒頭の現在と昔語り後の現在のマサエの姿を比べながら，マサエの考え方の変容を読み取っていくことが大切になる。

また，本教材では，会話文が筋の展開の上で重要な役割を担っていることが多い。そこで，会話文を中心とした心情表現に着目しながら，人物の心情を豊かに想像したり人物の見方・考え方について読み取らせていきたい。

4 本単元の学習で習得・活用させたい読みの技能

本単元の指導において，学習過程に沿って次のような読みの技能の習得と活用をめざしていく。

【読みのめあてを生み出す】

単元名，題名，冒頭を読む。

- ・「生き方」「考え方」をもとに，意味の違いを考える。
- ・「神様」をもとに内容を予想する。
- ・「わらぐつの中の神様」の意味を考える。
- ・情景を読む。
- ・時・場所・人物についてとらえる。
- ・文末に着目して，人物の考え方を読む。
- ・読み通しの目を生み出すための中心的な叙述を選ぶ。

【予見をまとめ・学習計画を立てる】

文章構成をつかむ。

- ・1行空きに着目し，場面を分ける。
- 予見をまとめる。
- ・予見につながる段落や文を見つける。

【読み確かめる】

人物の考え方や生き方を読む。

- ・文末に着目して読む。
 - ・繰り返してあることばを読む。
 - ・中心となることばや文を読む。
- 人物の考え方の変容を読む。
- ・類縁語を読む。
 - ・文末に着目して読む。
 - ・人物設定を読む。

【読みをまとめる】

- 「幸せにとって大切なこととは」について書きまとめる。
- ・キーワードをもとに考えをまとめる。

【読み方をまとめる】

読み方のスキルを振り返る。

5 学習計画（全 1 1 時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点
読 み の め あ て	1 2	<p>単元名から学習の構えをもつ。</p> <p>題名について話し合い作品の内容を予想する。</p> <p>冒頭を読み，おばあちゃんとマサエの見方・考え方の違いを読み取る。</p>	<p>1 学期単元「千年の釘にいどむ」を想起し，人物の生き方について考える。</p> <p>わらぐつについて補足説明をする。</p> <p>「の中の」「神様」に着目し，わらぐつの中にどんな神様が入っているのだろう，「神様」とは何か大切なものを表しているのではないかという課題意識をもたせる。</p> <p>「雪がしんしん」「こたつ」「スキー」などから場の設定をとらえさせる。</p> <p>「やだあ」「みったぐない」「神様だって」「迷信でしょ」といったお母さんとのやりとり，わらぐつやおばあちゃんに対する言動から，マサエの性格や見方・考え方を読み取らせる。</p> <p>おばあちゃんが「まじめな顔になって」話そうとしているのはなぜか考えさせ，何かマサエに分かってほしいことがあるのだろうということに気づかせる。</p> <p>おばあちゃんが伝えようとしている内容とはどんなことだろう。そして，マサエの見方・考え方は変わるのかという課題意識をもたせる。</p>
		<p>読みのめあて</p> <p>おばあちゃんは「わらぐつの中に神様のいなった話」でマサエに何を伝えたいのだろう。</p> <p>マサエは，この話を聞いてどう変わるのだろう。</p>	
予 見	3 4	<p>全文を読み，一行空きの「現在 - 過去 - 現在」という文章構成をとらえる。</p> <p>読みのめあて「おばあちゃんが伝えたいこと」と「マサエの変容」に対する自分の予見を書きまとめる。</p>	<p>1 行空きに着目して，現在・過去・現在という文章構成をとらえさせる。</p> <p>話を聞く前のわらぐつに対するマサエの考え方をおさえておばあちゃんが伝えたいことをまとめさせる。</p> <p>話を聞く前のマサエの言動を手がかりにマサエの変容をまとめさせる。</p>
		自分の予見を出し合い	伝えたいこととして，「人の身になって精一杯

学習計画	5 6	立ち止まり方の違いを整理する。 読み確かめる計画を立てる。	する心」が神様であることであることや、わらぐつを通しておみつさんと大工さんが幸せになったことに分類する。 マサエの変容を、神様を信じ、雪げたの中にこめられた2人の心に気づいたことと、おじいちゃんの見方が変わったことに分類し整理していく。 「おみつさんがわらぐつを編む姿と大工さんの言動」「現在のおばあちゃんの姿」「雪げたについてのマサエの言動」「おじいちゃんに対するマサエの言動」を中心に読み確かめていくことを確認する。
読み確かめ	7	わらぐつを編むおみつさんの姿と大工さんの言葉，をもとに，2人の考え方について読み確かめる。	「～のように」の繰り返しからおみつさんが使う人のことを一生懸命考えていることをとらえさせる。 大工さんの仕事に対する考え方がおみつさんと共通していることに気づかせる。
	8	とっても幸せに暮らしてきた，おばあちゃんとおじいちゃんの生き方について読み確かめる。	現在の場面で，おばあちゃんが大工さんの言葉をそっくり語っているわけを考えさせる。 「とっても幸せ」と言っているのはどうしてか考えさせる。 過去の昔語りから現在までの一行空きの間にある数十年の長さに気づかせ，長い間お互いを大切にしてきた生き方をとらえさせる。
	9 (本時)	「雪げたにも～神様がいるかもしれないね。」と言ったマサエの考え方について確かめる。	「雪げたにも～いるかもしれないね。」を冒頭のマサエと比べ，マサエが人の身になって尽くすことの大切さを受け止めていることに気づかせる。 マサエが2人の幸せな生き方について感心し，雪げたの中に込められている互いの心にまで目を向けていることをとらえさせる。 冒頭の「迷信でしょ」「神様だって」を比べ，おばあちゃんに対する態度が変わっていることに気づかせる。
	10	マサエのおじいちゃんに対する見方の変容について読み確かめる。	「かかえたまま」「飛び出して」といった叙述を似た言葉と比べ，マサエがおじいちゃんに対してどう思っているのか考えさせる。 冒頭でのおじいちゃんに対する態度と飛び出して迎えるマサエの姿を比べ，おじいちゃんに対する変化に気づかせる。
読みと読み方のまとめ	11	幸せに暮らすために何が大切なのかについて，生活を見つめ直しながら自分の考えを書きまとめる。 本単元で学習した読み方についてまとめる。	人の身になって尽くす真心の大切さとそれを大切に生きていくことや「自分の身近な家族」に対する深まった見方・考え方について書きまとめさせる。 学習した読み方についてまとめる。 ・文章構成の工夫を読む ・人物の考え方をを比べて読む ・繰り返しを読む ・文末表現を読む ・似た言葉を読む ・一行空きを読む

6 本時の目標

おばあちゃんとおじいちゃんのお考え方や生き方に共感し、雪げたの中に込められた2人の心に気づくマサエの変容について読み取ることができるようにする。

文末表現や似た言葉に着目したり、場面を比べたりする読み方を活用しながら、マサエの変容について読み取ることができるようにする。

7 本時指導の考え方

本時は、おばあちゃんの昔語りを聞いたマサエが、わらぐつに込められた人のことを大切に思う心に気づき、さらに、雪げたに込められたおばあちゃんとおじいちゃんのお考えと生き方にまで目を向けながら考えを深めていることをとらえることをねらいとしている。

そこで、本時指導において次の3点の手だてを行うことで、マサエの変容について筋道の通った考えをもち、自分の考えを根拠を明確にして表現しながら読み確かめることができるようにしていきたいと考えている。

中心文の読み取りと書き込みの視点について

「ふうん、だけど、おじいちゃんがおばあちゃんのために、せっせと働いて買ってくれたんだから、この雪げたの中にも、神様がいるかもしれないね。」を中心文に位置づけ、「この」という指示語が指す内容を確認し、「にも」にも着目しながら、ここでいう神様とは、だれのどんな心なのかという書き込みの視点を生み出すようにする。

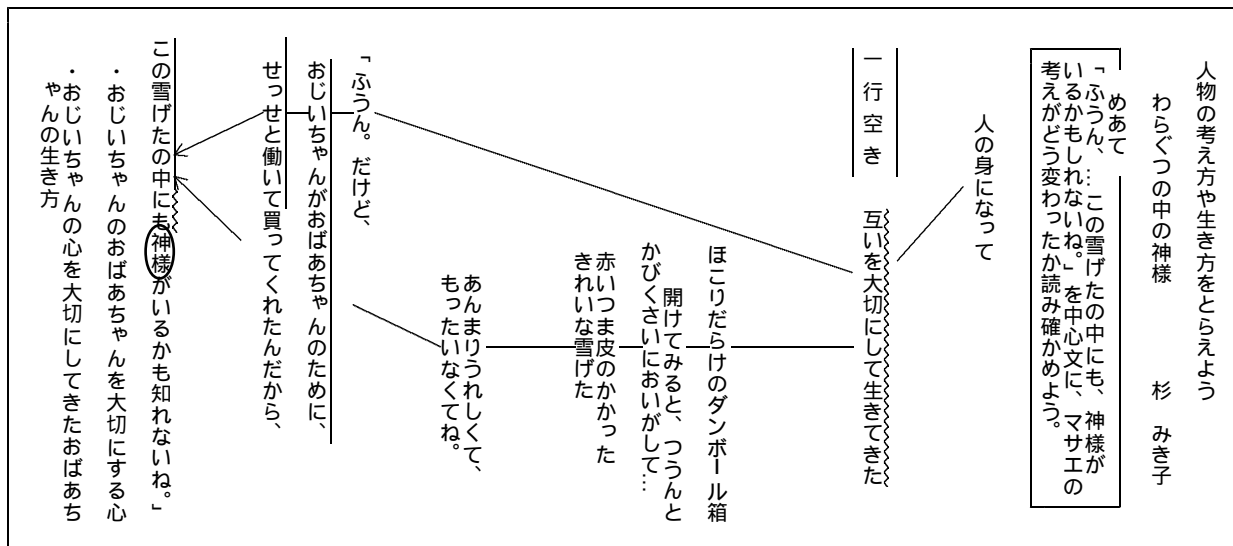
書き込みの際の助言と読みの把握について

児童の書き込みの際に机間指導を行いながら児童の読み取りを把握し、話し合いにおいて教師の意図的な指名を取り入れながら話し合いを進めていくことで、叙述に着目しながら焦点化された話し合いをめざす。

教師の問い返しと付箋紙を活用した書き込みについて

伝え合いにおいて必要感をもって叙述の意味について見直し、自分の考えを書き込んでから伝え合う活動を取り入れ、さらに自分の考えを活発に発表しながらマサエの変容について考えていくことができるようにする。

8 板書(10/12)



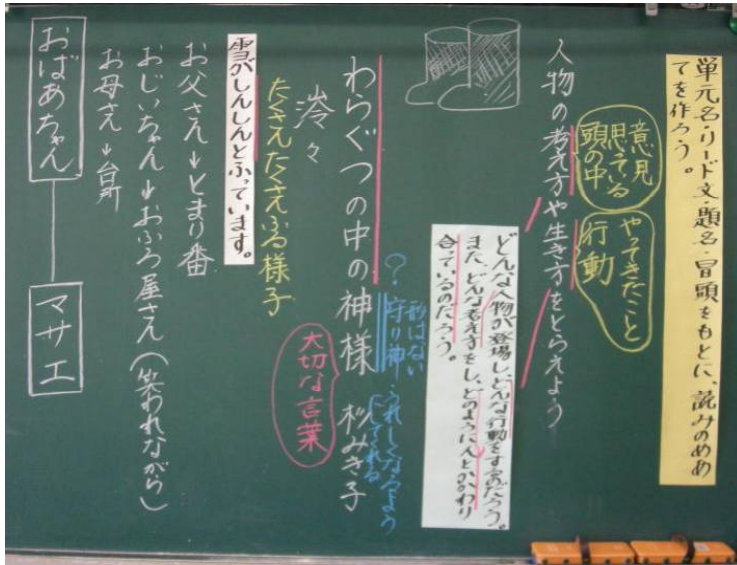
9 本時の授業課題

児童の発言をしっかりと聞き、根拠となる叙述を明確にして話し合いを組み立てる。
豊富な言語活動を取り入れ、テンポよくメリハリのきいた授業を展開する。

学 習 活 動	教 師 の 支 援 めざす子どもの姿
<p>1 学習計画を振り返り、本時学習の中心文とめあてを確認する。</p> <p>めあて 「ふうん、...この雪げたの中にも、神様がいるかもしれないね。」を中心文に、マサエの考えがどう変わったか読み確かめよう。</p>	<p>掲示物を利用して、読み確かめの視点が「マサエの変容」であったことと場面ごとに決めた中心文を想起させ、めあてを提示する。</p> <p>掲示物をもとに、どの叙述からマサエの変容を読み確かめていくか思い出し、教師の問いに反応している。</p>
<p>2 書き込みの視点を生み出す。</p> <p>(1) 中心文を音読する。 ・おじいちゃんが... ・この雪げた ・いるかもしれないね</p> <p>(2) 書き込みの視点を持つ。 ・だれのどんな思いや心なのか</p> <p>(3) 書き込みの視点をもとに、自分の読みを書きまとめる。</p> <p>3 書きまとめたことをもとに話し合う。</p> <p>(1) マサエが言う神様について話し合う。 ・せつせと働いて ・はずじまいさ</p> <p>(2) 冒頭のマサエの姿に立ち戻り、マサエの変容について見直し、付箋紙に書き、話し合う。</p> <p>4 本時学習のまとめをし、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>児童が行った音読をもとに、どの言葉に焦点を当ててマサエの考え方を読み確かめていけばいいかという見通しを持たせる。</p> <p>音読をもとに叙述に着目しながら、マサエの考え方についての課題意識をもっている。</p> <p>この雪げたとはどんなに雪げたなのか、中心文の叙述をつないで考えさせる。</p> <p>これまで読み確かめてきたことをもとに、マサエが言う「神様」とは、だれのどんな思いなのかについて書き込ませるようにする。</p> <p>机間指導を行いながら、書きまとめることが難しい子には個別に助言する。</p> <p>机間指導を行いながら、おじいちゃんの思いとして書きまとめている子と2人の共通する思いについて書きまとめた子に分類して把握する。</p> <p>おじいちゃんの立場から考えた児童から発言させ、それに対するおばあちゃんの思いに気づかせていくように話し合いを組み立てる。</p> <p>根拠をもって自分の考えを発表し、友達との共通点や相違点に気づいている。</p> <p>話し合ったことをもとに、冒頭のおばあちゃんに対するマサエの言動に着目させ、マサエのことをどう思うかについて付箋紙に書かせ、マサエの変容に対する自分の見方について紹介し合うようにする。</p> <p>これまでずっとお互いを大切にしながら生きてきたことを表す大切なものが雪げたであり、そのことにマサエが気づいたんだという方向で読みをまとめる。</p> <p>次時は、おじいちゃんに対するマサエの見方について読み確かめることを知らせる。</p>

1 物語文の学習過程についての考え方

(1) 「読みのめあて」を生み出す



単元名の読み

T この単元名の中で大切な言葉は？

T 「考え方」と「生き方」はどちらがうか。

リード文の読み

T 「どんな行動」とは「考え方」と「生き方」のどっち？

T どのように人とかかわりあっているは「考え方」と「生き方」のどっち？

T 考え方と生き方をとらえるために、何について考えていくかがリード文にかかれているんだね。

題名の読み

列指名で、4人に題名の音読をさせて読み方を比べさせ、「わらぐつの中の」「神様」に分けて考えていくようにした。そして、わらぐつの説明をしたあと、

T こんな小さなわらぐつの中にある神様とはどんなものだろう。

という発問をし、神様について考えさせた。

ここで、大切にしたことは、神様論に終始することではなく、神様がこの物語で大切な言葉であるという、題名の役割に気づかせることである。

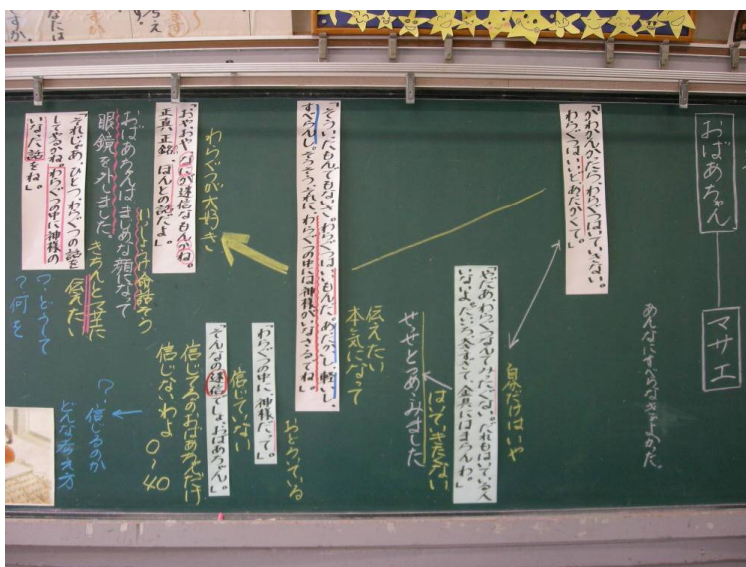
冒頭の読み

第1文だけを音読し、季節と雪が降る様子について考えさせた。

T 「しんと」とはどんな様子でしょう。

という発問に対し、静かな様子と答える子が多かった。そこで、漢字とその意味を教え、雪国が舞台のお話であることについて説明した。

次に、冒頭の役割の1つとしてとして、人物の設定があることを説明し、登場人物とそれらの人物がどこにいるかを確認した。その中で、この話を担っていく人物はだれかを問い、おばあちゃんとマサエに焦点化していった。



そして、おばあちゃんとマサエのわらぐつや神様に対する考え方が分かる文に線を引かせ、まず叙述を出させてから、順に叙述に立ち止まりながら、おばあちゃんとマサエの気持ちを考えていった。

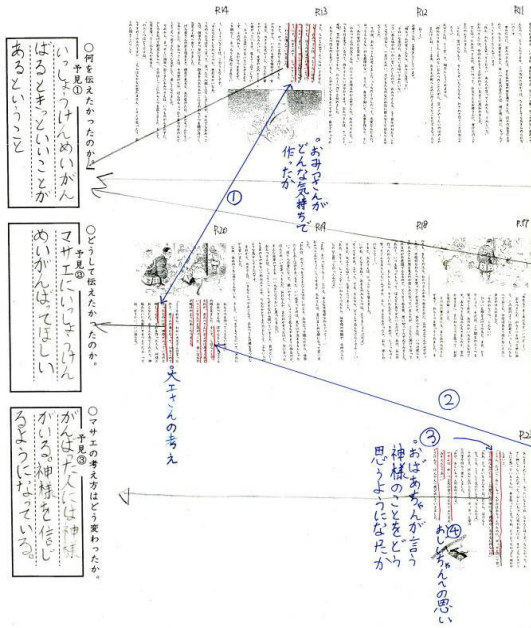
特に、ここで大切にした叙述としては、

- ・やだあ、わらぐつなんて...
- ・そんなの迷信でしょ

- ↓
- ・わらぐつの中には神様...
- ・まじめな顔になって眼鏡をはずしました

その後、おばあちゃんに目を向けた読みのめあてとマサエに目を向けた読みのめあてを考えさせ、「どうして伝えたいのか」「何を伝えたいのか」「話を聞いたマサエはどんな考えになるのか(信じるのか)」という3点から読みのめあてをまとめていった。

(2) 予見について話し合い，学習計画を立てる
全文を読み，自分の予見をまとめる。



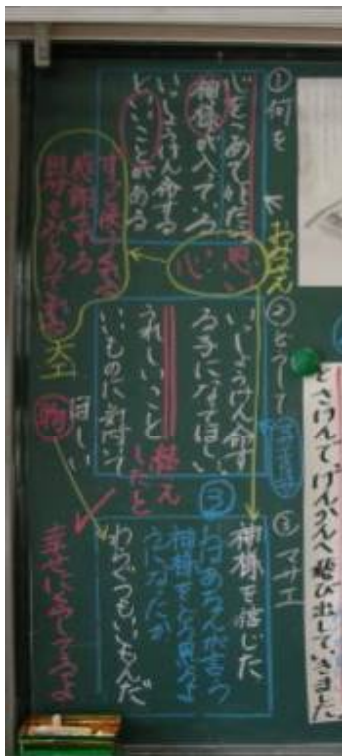
基本的に予見をまとめるときは，これまで培った読み方を活用しながら，児童が自分の力でまとめることが基本になる。学年や単元の積み重ねがとても重要になる。

まず，分からない言葉の説明をしながら教師が範読を行った。その後，自分でもう1度読みながら，読みのめあての答えと証拠の言葉を読み取りノートに書かせていった。

その際，読みのめあてに対する答えをあまり長く書かないようにさせ，互いの予見の共通点と相違点を比べやすいようにした。

また，予見をまとめる力については，先述したとおり個人差が出てきてしまうため，個別に助言しながら一人一人が自分の読みをまとめていくように机間指導していくことがとても重要になってくる。

予見の違いをもとに，根拠とした叙述に着目し，読み確かめる視点と中心文を決める。



予見について話し合う際には，全文をコピーしたものを板書に位置づけておくと，大まかな文章構成がわかりやすい。話し合いについては，何を， どうして， マサエはどう変わったか，の順で話し合った。 については，神様が入っている読みから心や思いに目を向けさせていった。そして，児童の読みから出てきた「いいこと」「うれしいこと」について考えていく中で，結婚できたことや幸せに暮らしてきたことという「生き方」にまで着目させるようにした。 については， との重なりが多く，「...を伝えたいから」と考えている子がほとんどだったので， に戻りながら話し合いを進めていった。

については，何についての考え方が変わったのかという観点で児童の読みを分類し，神様とおじいちゃんに対する考え方に着目させた。

読み確かめの視点として

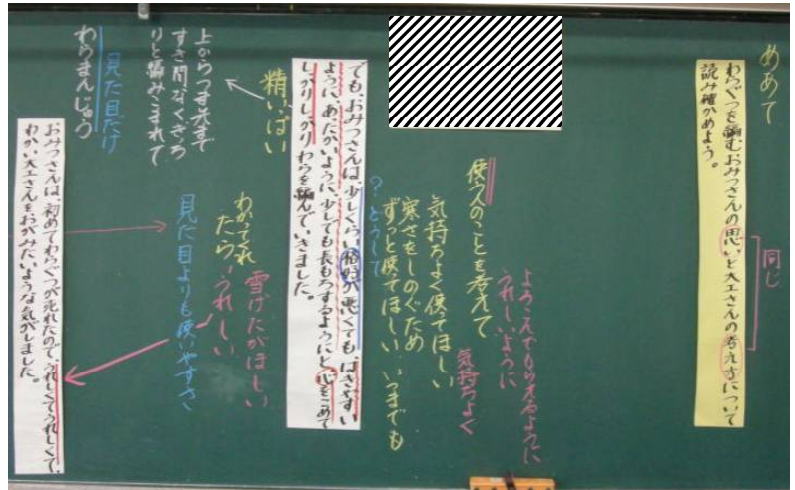
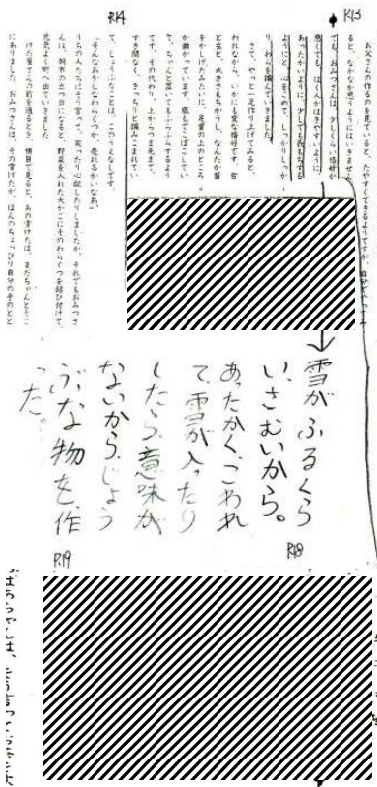
- ・おみつさんがどんな気持ちでわらぐつを作ったか。また，大工さんの考えは
- ・幸せに暮らしたこと
- ・マサエは神様のことをどう思うようになったか
- ・マサエのおじいちゃんへの思いは

(3) 学習計画に沿って読み確かめる

わらぐつを編むおみつさんの思いと大工さんの考え方について読み確かめる。

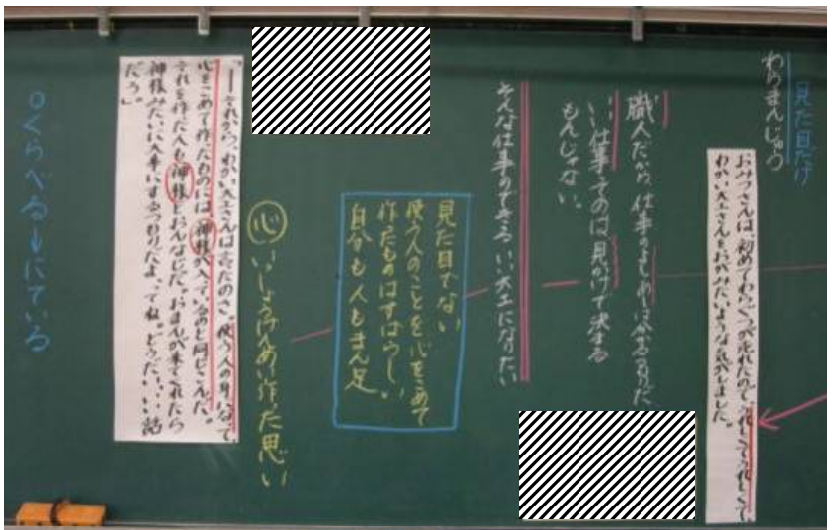
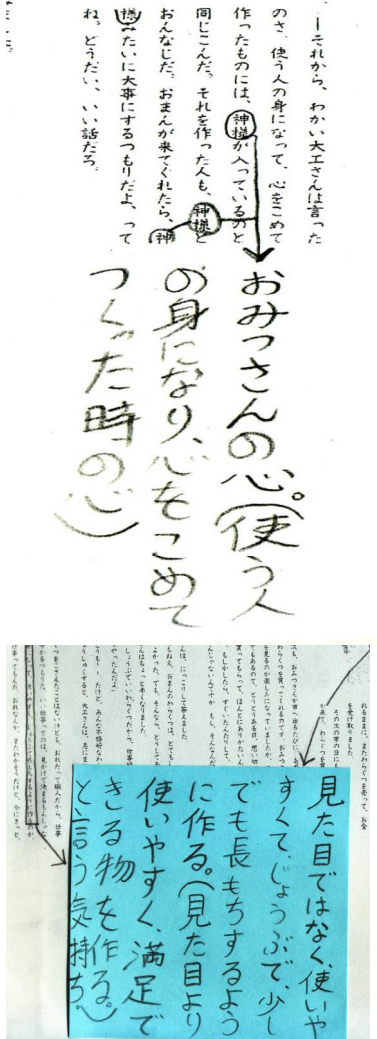
予見の話し合いで、しょうこの言葉とした叙述を中心文として位置づけていたことを想起し、どの叙述から何について読み確かめるのか明確にして学習のめあてとした。

まず、中心文を読み、心をこめての心の中身を中心文の中の叙述から見つけさせ、「どうして、おみつさんは心をこめてしっかりしっかり編んでいったのか」について書き込みを行い、おみつさんの思いについて話し合った。



次に、「見た目よりも使いやすさ」という読みから、見た目にだけ目を向けた口の悪い人たちと比較して、大工さんの考えを読み確かめていった。大工さんの言葉の中の「神様」とは？について書き込みをさせ、大工さんについて話し合っていた。その際、大工さん自身はどんな仕事をしているのか、と問い返し、おみつさんと同じようにいい仕事をしようとしていることに気づかせていった。そして、付箋紙に、おみつさんと大工さんの考え方で似ているところは何か、について書きまとめさせ、話し合うことで本時学習をまとめていった。付箋紙を使って、書く活動を話し合いの終盤に取り入れることによってもう一度全員が考えを持つことができ、話し合いが活性化しやすくなる。

最後に、人物の考えを比べて似ているところを見つけるという読み方を本時の学習で行ったことを確認した。



(4) 読みと読み方をまとめる

価値的な内容に着目した書きまとめ

- ・ マサエは、玄関でおじいちゃんにどんなことを話すだろう。
- ・ 自分の生活の中で、相手の身になってしてあげたことやしてもらったことはないだろうか。

単元で培った読みの技能を振り返る

2 本単元における読みの基礎・基本とは

【読みのめあて】

§ 単元名について考える

「生き方」「考え方」ということばをもとに、既習の物語文の学習を想起する

§ 題名を読む

「神様」ということばをもとに内容を予想する

「の中の」の意味を考える

§ 冒頭を読む

情景を読む

時・場所・人物についてとらえる

人物の考え方を読む

- ・ 文末に着目して読む

読み通しの目を生み出すための中心的な叙述を選ぶ

【予見・学習計画】

§ 文章構成をつかむ

場面を分ける

- ・ 1行空きに目をつける

§ 予見をまとめる

予見につながる段落や文を見つける

【読み確かめ】

§ 人物の考え方や生き方を読む

文末に着目して読む

繰り返してあることばを読む

中心となることばや文を読む

§ 人物の考え方の変容を読む

類縁語を読む

文末に着目して読む

人物設定を読む

【読みまとめ】

§ 「幸せにとって大切なこととは」について書きまとめる

キーワードをもとに考えをまとめる

【読み方のまとめ】

§ 読み方のスキルを振り返る

3 本時指導についての考え方（協議会において）

(1) 学習計画をもとにした課題意識

- ・ マサエの変容への着目
- ・ わらぐつと雪げたの比較

(2) 中心文の読み

- ・ 指示語の読み
- ・ 書き込みの視点

(3) 読み取ったことの書きまとめ

- ・ 書き込み方の技能

- ・ 教師の助言と見取り
- (4) マサエの考え方についての話し合い
 - ・ 読み取りの違いの位置づけ
 - ・ 話し合いにおける教師の役割（出番）
- (5) 読みをさらに深めるための書く活動
 - ・ 付箋紙の利用
 - ・ 叙述への再着目
- (6) 読みまとめ
 - ・ 叙述と読み取りの振り返り
 - ・ 読み方の振り返り

4 日常の学習で気を付けていること

- (1) 学習規律との根気くらべ
- (2) 「読む」「書く」「聞く」「話す」の 区別を大切に
- (3) 「分かった！」の気持ちを大切に
- (4) 国語を嫌いにならないように
- (5) まずは、共感を